

2008 年度事業報告および収支決算書



2009 年 3 月

環境 NGO IKAW AKO (イカオ・アコ)

Japan-Negros Partnership for Environmental Protection

## 1. 2008年度の活動

### 1.1 マングローブ植樹と生育調査

#### (1) 植樹

本年度は、8つのサイトで89,024本の苗木を植樹した。イカオ・アコのメインのサイトバラリン村では、イカオ・アコ主催の植樹ツアーの他、個人ツアーや市外の高校の野外授業、大学の課外活動などの機会に植樹を行った。また、JICA 草の根技術協力プロジェクトのサイトでは、住民団体を中心に植樹を行った。イカオ・アコ主催のツアー中には、地域の小学校・専門学校などの学生を招いて交流をしながら植樹を行うこともできた。

#### (2) 苗木の育成

本年度は、バラリン村で5月にナーサリーを設置し、苗木の育成指導に力を入れた。主な樹種は、マヤプシキとヒルギダマシである。苗木は、マングローブ林内に自然に生えてきた苗をプラスチックカップやビニールバックに詰め、林内で2ヶ月から3ヶ月育成するように指導した。また、植樹前に苗木の成長度合いをチェックするようになった。この努力の積み重ねによって、以前は植樹後半年の生存率が10%程度であったのが、30~60%ほどに上昇した。地元の住民も、作業量が増えて大変だが、定着率が上がった事に満足している。

バラリン村での実験が成功したことから、バクヤガン村、カイハガン村、カリリン村にもナーサリーを建設し、苗木育成の指導を行った。3箇所のナーサリーで、2万3千本あまりの苗木を育成した。これらの多くは植樹され、定着している。

#### (3) 生育調査

バラリン村では、週に1度程度のモニタリングを行った。モニタリングの際には、苗木に絡まったゴミやフジツボ・海藻・竹などを取り外したり、根が抜けた苗木を植えなおしたりといったメンテナンス作業も同時に行った。5月に植樹した苗木は、残念ながら6月21日に当地に上陸した台風フランクによってすべて流されてしまったが、メンテナンスや苗木作りの努力が実って、7月以降に植樹した苗木は、これまで以上によく成長している。7月に植樹したヒルギダマシの苗木は、2009年4月に樹高60cmになり、気根を備えているのが観察された。また、植樹地には、これまで見られなかった天然の実生が見られるようになり、今後は植樹をしなくても天然更新でマングローブ林が形成されていく可能性が開けてきた。

ボカナ村では、10月にプロジェクトを開始後、月に1度のモニタリングを行ってきた。ここでは、苗木を育成せずに苗木を採取した直後に海岸に植林していた。小さい苗木の定着率はよいものの、大きい苗木は植樹後1ヶ月程度で枯れるものが多かった。そこで、苗木の育成方法を指導し、今後はここでもナーサリーを設置して苗木を育成することになった。この村では、イカオ・アコとして5000本の植林を行ったが、村としてや州政府の援助

でも植林を行っており、本年度だけで 1 万本程度が植林された。生存率は低いですが、確実に成長している。今度とも生育を見守って行きたい。

その他のプロジェクトサイトは、遠方のため、2 ヶ月に 1 度程度のモニタリングしか行えなかった。しかし、環境局 (PEMO) の職員が週に 1 度程度モニタリングに行き、報告を行ってくださっている。これらのサイトでは、週に一度程度枯死した苗木を植え替える作業を行っており、生存率を約 100%に保っているという。今後も、PEMO と協力してモニタリングを行って行きたい。

表 1. プロジェクトサイトと植樹本数・植樹面積

プロジェクトサイト	植樹本数	植樹面積
<b>A. シライ市</b>	<b>23,494</b>	<b>3.0</b>
1. バラリン村	23,494	3.0
<b>B. サガイ市</b>	<b>6,000</b>	<b>0.6</b>
<b>C. ヒノバーン郡</b>	<b>11,000</b>	<b>1.3</b>
1. バクヤガン村	6,000	0.8
2. ポーク村	5,000	0.5
<b>D. シパライ市</b>	<b>42,500</b>	<b>8.0</b>
1. バランガイ フォー	10,500	2.0
2. カイハガン村	32,000	6.0
<b>E. カワヤン郡</b>	<b>1,030</b>	<b>0.4</b>
1. カリリン村	1,030	0.4
<b>F. イログ郡</b>	<b>5,000</b>	<b>2.0</b>
1. ボカナ村	5,000	2.0
<b>TOTAL</b>	<b>89,024</b>	<b>15.3</b>

## 1.2 コミュニティでの文化交流事業

植樹サイトがある Balaring 村のマングローブ祭り (オリエンテーリング) と、私学である Jack & Jill School で、日本文化の紹介としてソーラン節などの披露を行った。フィリピン側は保育園から老人まで、年代毎に祭り衣装に身を包んで歌や踊りを紹介してくれた。



### 1.3 奨学金制度の継続

イカオ・アコのカウンターパートであるフィリピン工業大学において、環境に関心のある、意欲のあるフィリピン学生3名に対して、授業料と下宿代の奨学金を与えるプログラムを継続した。

### 1.4 日本企業や高校との協働事業

企業の展示会などで不要となった文房具などノベルティグッズや、Tシャツ、高校から古着などをフィリピンに送り、行政、教育機関に配布し、現地から大変喜ばれている。また、一部を格安で販売し、竹で建設し、朽ちかけている作業道の補修に当てる予定である。



### 1.5 国内活動

- ・ 植樹事業参加者募集とオリエンテーション
- ・ スケジュールの設定・航空券などの手配・現地との連絡
- ・ 帰国後のプロジェクト評価・反省
- ・ 高校の総合学習のお手伝い
- ・ Web、メールマガジン、ブログ等の充実化
- ・ 企業との連携強化



9) 消耗品費	100,000	21,207	78,793
10) 印刷製本費	30,000	29,675	325
11) 光熱水料	0	0	
12) 賃借料	0	0	
13) 車両関係費	0	0	
14) 諸謝金	0	15,400	△ 15,400
15) 租税公課	0	0	
16) 雑費	2,000,000	1,796,971	203,029
3 予備費	0	0	
1) 予備費	0	0	
経常支出合計	10,590,000	11,339,099	△ 749,099
経常収支差額	222,000	300,154	78,154

### 3. 会員の状況（2009年3月31日現在）

正会員	175名
賛助会員	4名
名誉会員	1名